祝「うえまち」創刊20周年！
「うえまち」は2025年4月、20周年を迎えます。
web版では街ネタ・グルメ・イベント・歴史・教育・子育て・福祉・医療など地域情報を紹介。創刊号（2005年4月号）からのバックナンバーもご覧いただけます。
うえまち新聞 web版

上町台地界隈の情報紙

揮毫 一心寺 長老 髙口恭行 師

since2005
第236号
2025年5・6月号

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

うえまち新聞 web版

「上町台地」名所図会

第31回

三光神社（天王寺区）

戦国最後の合戦である「大坂の陣」は、上町台地上で繰り広げられました。なかでも、「真田丸」をめぐる攻防は真田信繁（幸村）を一躍有名にします。大坂城の南につくった出城にこもった真田軍が徳川側に与えた損害は1万人以上。20万の大軍で大坂城を取り囲みながら徳川が和議にしか持ち込めなかったのは、この出城の存在が大きかったのです。

和議によって完全に破壊されたため、長く真田丸がどこにあったかは謎とされました。候補地のひとつが三光神社（写真左）で、信繁が大坂城を抜け出たとされる穴も社殿の下に残ります。境内には采配を持った信繁像が建ち、毎年11月の第1日曜に真田祭が催されています。しかし、現在は「抜け穴は徳川軍がつくった塹壕跡。神社自体も真田丸の外にあった」とみられています。

では、正しい場所はどこか？『諸国古城之図』などの検証が進んだ結果、明星中学・高校とその東側に並ぶ寺院が、真田丸の場所にあたることが明らかになっています。それを受け、2016年には心眼寺坂の途中に「真田丸顕彰碑」（写真右）も建立されたのでした。

このあたりは実に不思議な地形が多く、心眼寺坂は「心臓破りの坂」ですし、推定地にある寺院の東は大きな崖になっています。そうした地形の妙を信繁は活かしたのでしょう。真田丸の南西角にあたる「餌差町の交差点」に立てば、南に向かって長い坂になっており、迎え撃つのに絶好の場所だったこともわかります。信繁もそこに立ったはず。彼はどんな景色を見たのでしょう。

三光神社は長く真田丸の場所とされた

心眼寺坂の途中に顕彰碑が建つ

中原文雄／写真
1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文
1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会（ずえ）とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「うえまちweb」（https://uemachiweb.com/）連載の「『上町台地』名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。

相羽秋夫の

らくごハローワーク

小間物屋

第41職 細々（こまごま）と人間関係『小間物屋政談』

背負い（しょい＝行商）の小間物屋の男、上方へ買付けに行く途中、箱根の山中で江戸一番の小間物屋の主人を助けるが、主人が死んだため男が主人と間違えられてしまう。

未亡人になったと思った男の女房は、男のいとこと再婚してしまう。そこへ上方から男が帰ってきたので、3人の間に争いが起きる。

大岡越前守の裁きとなり、越前守は、女房といとこは今のまま夫婦を続けよ、男は助けた豪商の未亡人と結婚して3万両の身代を継げ、と名判決を下す。

喜んだ男「御恩は生涯背負いきれません」と礼を言うと越前守「今日からは、もう背負うには及ばぬ」。

◇

小間物屋又は小間物店（みせ）は、櫛・笄（こうがい）・簪（かんざし）・楊枝・紙入れ・煙草・化粧品などの、主に女性向けの日用品の細々とした物を売る商売で、江戸期には〝背負い〟、つまり各家庭を廻る形態が主流だった。

小間物とは、高麗（こま。こうらい＝朝鮮半島にあった王朝）からの舶来物とする説と、細々とした物という説があって決着を見ない。

小間物屋に対比する商売として、荒物（あらもの）屋がある。こちらは、箒（ほうき）・や塵（ちり）取り・笊（ざる）・束子（たわし）などの家庭用品を扱う店である。

これら2つの商売は、今日では雑貨商の名で呼ばれる。

女性用品を扱う関係から、良家の婦女子や屋敷の女子衆（おなごし）を相手にする。世間のうわさ話や芝居の評判などを提供しながら商品を売る。中には良からぬ小間物屋もいて、女性向きの秘具秘薬を売りつける輩が存在した。

「小間物屋さんお前のは高かろう」

の川柳は、秘具の張り形が雁高（かりだか）と、値段が高いが掛けてある。

「かんざしや櫛やへのこを出して見せ」

と、そのものずばりの抜き身を露出する〝困〟った者までいた。

NPO法人「まち・すまいづくり」活動報告

お問い合わせはNPO法人「まち・すまいづくり」まで
TEL:06・6779・7222

住まいと暮らしの総合無料相談会

5月10日・6月14日
7月12日（土）10時～12時

弁護士、司法書士、一級建築士、税理士、宅地建物取引士の当法人会員が専門知識を生かし、住まいと暮らしのご相談に応じます。電話またはHPよりお申し込みください（電話受付は平日10～15時）。

主催：NPO法人まち・すまいづくり
電話：06・6779・7222
場所：大阪市立社会福祉センター（天王寺区東高津町12・10）
後援：天王寺区役所

第48回 うえまち寄席 桂米之助襲名記念公演

7月6日（日）
13時30分開場、14時開演

ゲストとして桂南光氏を迎え、桂米之助、桂佐ん吉による古典を中心とした落語会です。

場所：一心寺南会所（天王寺区逢阪2-7）
入場料：予約3000円 当日3500円

本誌の連載が出版！

以前本紙に連載していた『四天王寺新縁起』（一本崇之著、四天王寺監修・東方出版）新発売。2200円（税込）。書店でお買い求めいただけます。

NPO法人まち・すまいづくりは、2024年に、創業20周年を迎えました。
これを記念し、「勝ち虫」の吉祥文様、トンボづくしの伊勢型染めオリジナル手ぬぐいを販売しています。
詳細・お問い合わせは、NPO法人まち・すまいづくり（TEL:06-6779-7222）までお問い合わせください。

上町台地界隈の情報紙

揮毫
一心寺 長老
高口恭行 師

since2005
第237号
2025年5・6月号

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

うえまち新聞
web版

「上町台地」名所図会

第32回

安居神社（天王寺区）

大坂冬の陣は和議で終わり、真田丸は破却されます。さらに、すべての堀が埋めたてられたため、大坂城は丸裸になりました。こうなると豊臣方は野戦に打って出ざるを得ません。夏の陣では、真田信繁（幸村）も茶臼山に本陣を構え、徳川方と相対します。

この時の天王寺口の戦いはまさに激戦で、数に勝る徳川方でしたが、3里も逃げた旗本がいるなど大混乱を来たしたそうです。家康が切腹を覚悟したといわれるくらいでしたが、なんとか態勢を立て直して攻めに転じたのでした。結果、真田軍は総崩れに。敗れた信繁が討ち取られたのが安居神社でした。いまは戦死跡を示す碑と、兜を脱ぎ片膝を立てた信繁の像が建ちます（写真左）。

ただ、夏の陣直後から信繁生存説はささやかれていたようで、よく知られるのは秀頼を連れて薩摩に渡ったというもの。イギリスの商館長も東インド会社に「秀頼薩摩逃亡説」を報告しています。一方、家康死亡説もあり堺市の寺には家康の墓まで建っているのですから、伝承とはいえ興味は尽きません。

その安居神社ですが菅原道真にゆかりがあり安居天神とも称されます。大丸の創業者・下村彦右衛門が信仰したため大丸天神といわれることもあるようです。小高い場所にあり北に下ったところで天神坂（写真右）につながります。坂の途中には、天王寺七名水のひとつといわれた「安井の清水」のモニュメントもつくられていました。「日本一の兵（つわもの）」も歩いたかもしれないこの坂は、歴史の息吹が感じられる石畳が美しい坂でもあります。

兜を脱ぎ片膝を立てた信繁の像

坂には安井の清水のモニュメントもある

中原文雄／写真
1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文
1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会（ずえ）とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「うえまちweb」（https://uemachiweb.com/）連載の「『上町台地』名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。

相羽秋夫の らくごハローワーク

戒名書き

第42職 霊前の卒塔婆に捧ぐ『戒名書き』

彼岸の四天王寺の境内には、「戒名書き」と呼ばれる商売の人たちが並んでいた。

1人の男が長い戒名を依頼すると、戒名書きは「ちょっと小便に」と言って帰ってこない。その隣りに頼むとすらすらと書いてくれたが、相場の何十倍もの料金を請求される。額を聞いた男「私も小便に」。

◇

仏教では、戒律を受けて仏門に入った者に付ける名前を戒名と呼んだが、平安期頃より死んだ者に葬儀の中で与える名前になった。ただし、浄土真宗だけは、戒律を受けないので、戒名ではなく法名と言う。

成人の男子は、大居士（こじ）・居士・大禅定・信士・清信士。成人女子は、清大姉・大姉・禅定尼・信女・清信女。そして童子は、童児・清童児・童女などの位号（戒名の一番最後）を付ける。

この戒名を、死者の追善のために細長い板に書いて、墓の側に立てるものを卒塔婆（そとば、そとうば）と称する。卒塔婆に記入するのは簡単ではないので、「戒名書き」に料金を払って書いてもらった。

この噺のように、主要な寺院の境内には、春秋の彼岸、盆、縁日などでさまざまな露店が出て賑わう中に「戒名書き」も出店した。

戒名または法名は、俗名（生前の名前）に対する名称だが、俗名は本名とも言う。この本名に対する語に、綽名（あだな）・字名（あざな）・異名・ニックネームなどがある。

また、職業に注目すると、筆名（作家）、号（画家・彫刻家・俳人・詩人）、芸名（芸能人）、四股名（しこな＝力士）、源氏名（ホステス）などもある。

スポーツチームにも、最近は愛称を付けることが多い。一例を挙げると、侍ジャパン（野球）、ソフトジャパン（ソフトボール）、SAMURAI BLUE（サッカー男子）、なでしこジャパン（同女子）、サクラジャパン（ラグビー男子）、火の鳥NIPPON（バレーボール女子）、アカツキジャパン（バスケットボール）、彗星ジャパン（ハンドボール男子）、おりひめジャパン（同女子）、日の丸飛行隊（スキージャンプ）と、広範囲に及ぶ。

かく言う相羽秋夫も筆名である。

大阪市博物館機構提供 展覧会情報

大阪市立美術館
7月5日（土）～8月31日（日）
大阪・関西万博開催記念　大阪市立美術館リニューアル記念特別展「ゴッホ展 家族がつないだ画家の夢」

大阪歴史博物館
6月14日（土）～8月24日（日）
特別展「正倉院 THE SHOW ―感じる。いま、ここにある奇跡―」

大阪中之島美術館
6月21日（土）～ 8月31日（日）
「日本美術の鉱脈展　未来の国宝を探せ！」

大阪市立東洋陶磁美術館
開催中～11月24日（月・休）
特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」

大阪市立自然史博物館
7月12日（土）～9月23日（火・祝）
特別展「昆虫MANIAC」

大阪市立科学館
開催中～6月29日（日）
企画展「プラネタリウム100年―プラネタリウムの過去・現在・未来―」
※休館日等の詳細は各館HPをご確認ください。